

福島市長、福島市人事課 御中

官民共同で動物福祉施策を進める意義と 政府へ旧優性保護法復活を求める意義

行政官は頭が良く因果関係を把握できるため、脳が健康なボランティアとスムーズに会話でき、連携できる。**頭の良さは道義心向上の素養**。一方、動物ボランティアの多くは論理破綻者でおだてに弱く、ミスを指摘されると逆恨みする。私は福島市内のトンチンカンなボランティアから多くの妨害を受けて苦勞した。トンチンカンなボランティアと私（星野）の関係性を示す。

ボランティア A	「産ませたい人は産ませて良い、私は避妊手術したい人のお手伝いをするだけ」と。 この女性は承認欲求が強く、周りから良く見られたくて、無駄な気配りをしたり、挨拶がやたらに長くて、私に指摘されて、私を嫌っている。
ボランティア B	私と毎日のようにTNRで動いていたのに、ある日突然、「産ませたほうが良い」と言った。理由を聞いたら、「娘がそう言ったから」と返答。親バカで思考力が低く、おだてに弱い。 「行政が殺しているから行政が悪い」という短絡的思考が根底にあり、因果関係を考えない。 私から指摘されて逆恨みして、呼吸するように嘘を吐き続けて、最後は焼死。バリバリの共産脳で無駄に生活保護の斡旋をしたりする。論理派ではなく情緒派。
ボランティア C	繁殖業者を叩いている私に向かって、諭すように「ブリーダーへ感謝している」と言った。 また、手術をせずに産ませた者が仔猫の里親を探したことについて、「長所は褒めてあげないとね」と私へ諭すように言った。 避妊手術を理解できていない者が里親探しをすると、里親さんへ避妊手術の必要性を伝えない。自分が理解できていないことを他人へ伝えることはできないから。よって、里親さんが産ませる可能性が高くなり悪循環になる。共産脳。Bと組んでいたが最後はBと分裂。それから一ヶ月もしないうちにBは焼死。

【総括】

- 地方交付税の配布で地方を甘やかすと A、B、C のような自惚れの強い人間が増えて社会がグチャグチャになる。
- 1996年、旧優性保護法の廃止により、知的障害のある方が出産することによる被害は甚大。知的障害のある方が子供を産むとネグレクトになるため、公機関で子育てをするしかない。そうになると、増税しても増税しても追いつかなくなる。旧優性保護法による強制避妊手術は世界に自慢できる人道的措置。旧優性保護法を「人道的避妊法」に改名して、復活させることで日本再生の可能性は大きくなるため、私は政府へ旧優性保護法の復活を政府へ進言しているところ。岸田内閣は単純に人口を増やせば良いとは考えていないはず。どこの国も自治体も優秀な人材を確保したいはず。

【要望事項】

今後は官民共同で進めたいと思います。福島市保健所の現メンバーを移動させず、獣医師をあと2名以上増やすようお願い申し上げます。

福島市矢剣町11-3 星野節子 024-563-7650

<https://ameblo.jp/animal-police> ←これを読まない時代遅れになります

Ameba検索で、「動物の繁殖は虐待」で検索を

